

コラム電池・防災分野の市場動向に関して

Trends in the Market for COLUMN Cells for Fire Prevention Systems

1960年に国内で初めて生産された円筒型密閉ニッケル・カドミウム蓄電池を、弊社では形状に因んで“コラム”COLUMN（円柱・・・エネルギーの柱）と呼び、“コラム電池”のニックネームをつけて世に送り出しました。

以来今日まで幅広い用途で支持され、実績を重ねて参りました。

高度情報化の現代社会においても、コラム電池の持つ優れた性能、耐久性は、高い信頼性を要求される「防災機器のバックアップ電源」として、火災報知器用、非常放送用、消火設備用、ガス漏れ警報設備用、防火シャッター用などの様々な用途において幅広く採用され、私たちの暮らしの安全、安心に大きな役割を果たしております。

弊社防災用コラム「鑑定品」電池のシェアは、年々拡大の一途を辿り、2006年度では個別受験実績シェア50%を越え、トップシェアを維持しつつ、更なるシェアの拡大を誇るに至っております。

また、昨今のトピックスとして、下記消防法及び建築基準法の改正がありました。

■ H14年4月22日～：消防法の一部が改正され防火安全対策を強化。

※メンテナンス及び定期点検の普及促進が強化された。

■ H15年10月1日～H17年9月30日（猶予期間2年間）：消防法の改正により小型雑居ビル向けに火災報知設備の設置義務化。

※ 500m² → 300m² に拡大して、火災報知設備の設置が義務付けられた。

■ H17年12月～：建築基準法の改正により、防火シャッター危害防止用連動中継器の設置が義務化。

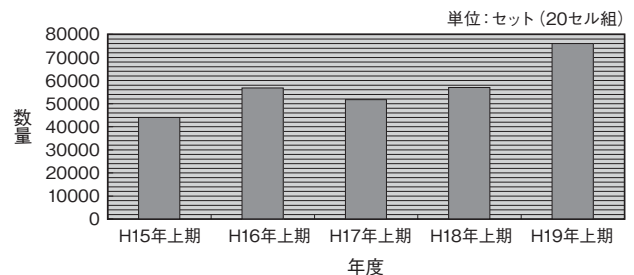
本年度に於いては上記法改正に伴い、新たな取引先の開拓を含め、火災報知器メーカー及びシャッターメーカー各社からのコラム電池の御採用が、一段と拡大しております。また、新しい用途と致しましては、水圧開放装置付シャッター用非常電源にも、

弊社のコラム電池の採用が既に決定しております。

弊社は、これらの防災市場のニーズに併せた商品開発を行い、今後とも安全、安心な社会の建設に貢献し、顧客各位の要望に応じて参りたいと思っております。

* 鑑定品（火災報知設備用予備電源；蓄電池設備）とは・・・
私達の生命と財産の安全を守る重要な消防機器等に使用されるため、付与された型式とその構造、材質、性能等が同一であるかどうかを全数立会い検査し、合格した製品には必ず「合格」の表示を行った上で出荷することが法律で定められております。

■コラム鑑定品 受験実績数量<上期4月～9月累計数量>



* H19年度は対前年度133% UP

■自動火災報知設備用予備電源 (鑑定品)

古河型式	定格 (V)	容量 (Ah)
20-AA100A	24	0.1
20-S201A	24	0.225
20-S101A	24	0.45
20-S213A	24	0.6
20-S204A	24	0.9
20-S113A	24	1.2
20-S104A	24	1.65
20-C2.0A	24	2
20-S103A	24	3.5
20-D4.0A	24	4
20-S108A	24	6
20-S128A	24	8
20-S127A	24	10
22-S104A	24	1.65
20-AA600A	24	0.6

■消火設備用直流電源装置内蔵電池 (蓄電池設備)

古河型式	定格 (V)	容量 (Ah)
20-D3.5	24	3.5
20-F6.0	24	6
20-M8.0	24	8
20-M10.0	24	10

■ガス漏れ火災警報設備用直流電源装置内蔵電池 (蓄電池設備)

古河型式	定格 (V)	容量 (Ah)
33-C1.7	39.6	1.7
33-D3.5	39.6	3.5
33-F6.0	39.6	6

(産業機器事業本部 情報通信営業部 佐藤 道宏)